

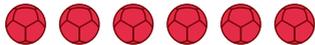


試合の流れ

ポッチャはどれだけボールを的に近づけることができるかを競うシンプルなルールです。ここではどのように試合が進むかを説明します。

1 両選手(ペアやチーム)が6個ずつのボールを使用します

A選手



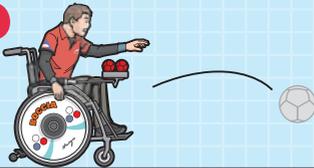
B選手



試合開始となる第1エンドは常に赤ボールが先攻となります(以降、偶数エンドは青ボール、奇数エンドは赤ボールが先攻)

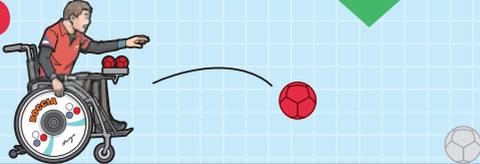
2 先攻側が的となるジャックボールを投げ、続けて1投目の投球を行います

A選手



最初にジャックボールを投げます

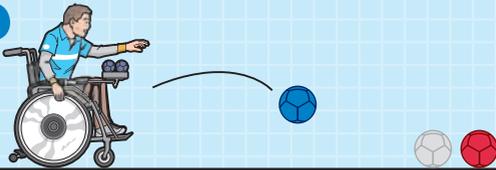
A選手



続けて自分のボールを投げます

3 後攻側が最初の投球を行います

B選手

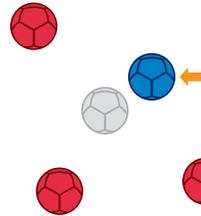


後攻側がボールを投げます

4

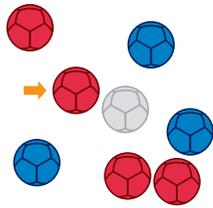
以降、ジャックボールからより遠い位置にボールを投げた側の選手がその次の投球を行います

例1



→青の方がジャックボールに近いので、次は赤側の投球となります

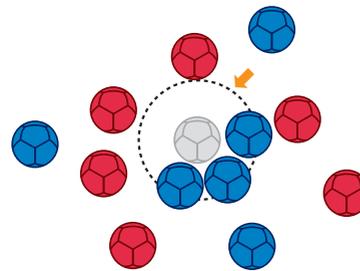
例2



→赤の方がジャックボールに近いので、次は青側の投球となります

5

赤、青ともに6球ずつを投げた時点で得点を計算します



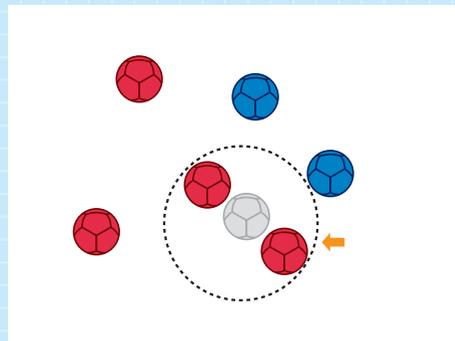
エンド終了時、ジャックボールにもっとも近いボールを投げた側のみ得点が入ります。相手側のジャックボールにもっとも近いボールよりも、ジャックボールに近いボール1個につき、1点が与えられます。

→青の方が赤よりも3つジャックボールに近いので、3点が入ります。

この一連の流れを1エンドとし、個人戦とペア戦は4エンド、チーム戦は6エンドを行います

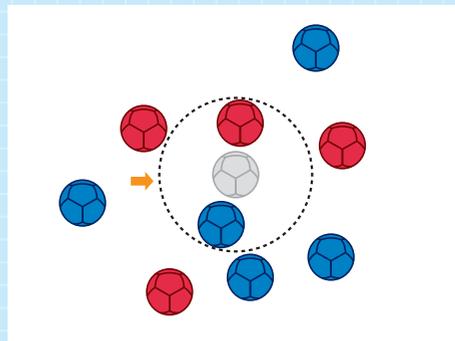
6 以降、同様の形式で各エンドを戦い、点数をつけます

●第2エンド



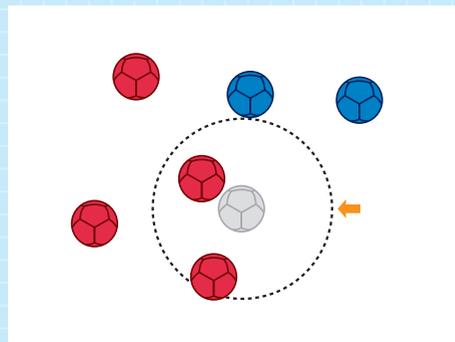
→赤の方が青よりも2つジャックボールに近いので、赤に2点が入ります

●第3エンド



→赤、青ともにジャックボールから同距離ということで両チームに1点ずつ入ります

●第4エンド



→赤の方が青よりも2つジャックボールに近いので、赤に2点が入ります

個人戦	第1エンド	第2エンド	第3エンド	第4エンド	合計
A選手(赤)	0	2	1	2	5
B選手(青)	3	0	1	0	4

5-4でA選手(赤)の勝利!

●すべてのエンドが終了時点で同点の場合

個人戦とペア戦は4エンド、チーム戦は6エンドを行った後、同点の場合はタイブレイクを行います。タイブレイクは、まずコイントスで先攻・後攻を決め、ジャックボールはコート中央のクロスに置かれます。その後は通常のエンドと同様にお互いのボールを投げ合い、点数の多い方がその試合の勝者となります。もしそれでも勝負が決まらない場合は、同様のタイブレイクを2回、3回と行います。

選手とともに戦うアシスタント

パラリンピックに出場するボッチャの選手は、比較的重度な障がい、ボールを投げるのが難しい選手のクラスもあります。そこでアシスタントがサポートすることで、選手たちは最大限に自分の実力を発揮することができます。

Q すべての選手にアシスタントがつくの?

A アシスタントをつけられるのは、BC1クラスとBC3クラス、足蹴りのBC4クラスのみです。

Q アシスタントは何をするの?

A アシスタントができるのは、あくまで選手のサポート。選手へのアドバイスや合図を送ることは禁止されています。

●BC1クラスとBC4クラス(の内、手で投球ができず足蹴りで投球する選手)のアシスタントの主な役割
選手の指示を受けて車いすの位置を調整、選手にボールを渡す、渡す前にボールを丸める など

●BC3クラスのアシスタントの主な役割
選手の指示を受けてランプの調整や設置、ボールを丸める、選手がプッシュする位置にボールを置く など



ボールを丸めることで真球に近づき、まっすぐに転がりやすくなります



BC3クラスのアシスタントは競技中、コートに背を向けていて、コートの様子を見ることは認められていません

さまざまな用具の工夫

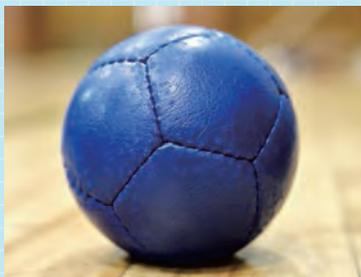
1 それぞれのボールの特性

ボッチャで使用するボールは、ルール上大きさと重さの規定が決まっています（周長が270mm±8mm以内、重さは275g±12g以内）。

しかし、同じ赤青のボールでも微妙に違う色をしていたり、硬さや材質が違うことがあります。ボールにはそれぞれ特性があり、選手は障がいの特性やプレースタイルによってボールを使い分けているのです（ボッチャはマイボール制です）。



天然皮革製



ボールに凹凸が少なく、まっすぐ転がりやすい特徴があります。

フェルト製



表面が毛羽立っているので滑りやすい性質から、ボールを弾く時などに向いています。

人工皮革製



表面がしっとりとしていて滑りにくい性質から、ボールの上にボールを乗せたいときなどに向いています。



2 選手の投球を支えるランプ

ランプとは、ボールを投げることができないBC3クラスの選手が使用する勾配器具。ボールを転がすことで投球を行います。ランプは長さを継ぎ足すことで高さを調節でき、それによってボールのスピードを速くし、遠い距離を狙ったり、コート上のボールを弾くことができます。



簡単に高さの調節ができます。エーションのある投球を可能にします。

大きさの規定は、最大に支柱を伸ばし、ランプの継ぎ足しを全てつけた状態で床面に寝かせスローイングボックス（2.5m × 1.0m）内に収まること。



自分の手でボールを押し出すことができない選手は、頭部や口にリリーサーを装着し、投球を行います。リリーサーの長さは50cm以内に収まるようにしなければなりません。

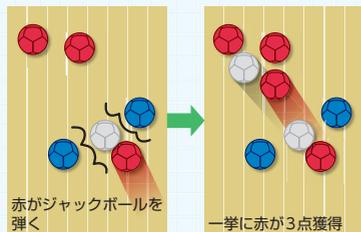
ボッチャの奥深い戦術!

ボッチャは頭脳戦と言われる通り、様々な戦術を駆使して戦う競技です。観戦する際の楽しみ方や着眼点をご紹介します。試合中は選手の狙いがどこにあるのかを考えてみても面白いかもしれません。

1 的の位置を自由に決められる

ボッチャはカーリングに似ていますが、その最大の違いは的の位置を選手が決められること。最初に投げるジャックボールの位置をどこにするかがまず重要な駆引きです。例えば、「相手が長距離の投球が苦手なら遠い位置にジャックボールを投げる」や、「あくまで自分の得意な近距離で勝負する」など、何を主眼に

置くかで戦い方が変わってきます。また試合の途中でも、自分のボールをジャックボールにぶつけることで的の位置を変えることができます。コートの外にジャックボールをはじき出すとコートの中心にジャックボールが戻されるため、場合によっては不利な状況を打破する手段にもなります。



広いコートのおかげで勝負するの、駆引きが面白い!

2 残りの球数が多い方が有利

1エンドの中でそれぞれが6球ずつボールを投げ合いますが、残りの球数が少なくなるほど仕掛けられる戦術の幅がせまくなり、不利な状態では状況を打破することが難しくなります。つまり、できるだけ相手にボールを消費させて残りの球数を少なくさせることが勝利のために重要です。では、どのようにしたら相手に多くのボールを投げさせることができるのか。カギとなるのは各エンド序盤にどれだけ正確な投球をして

ジャックボールに近づけることができるか、です。ボッチャはジャックボールから遠い位置にボールを投げた側がその次のボールを投げます。もし先にジャックボールにピッタリと近づける投球ができれば、相手にボールを投げさせる機会が増え、球数を消費させることができるというわけです。コートが相手の有利な状況でも、残りの球数が多ければその状況をひっくり返すこともできるかもしれません。



お見事! 1投目でジャックボールにピッタリと近づけました。こうすることで有利に戦うことができます。

もっとボッチャを知りたい!

日本ボッチャ選手権大会

日本一を争う日本選手権大会は、予選会と本大会に分かれています。

日本全国で競技者が増えてきているボッチャですが、国内チャンピオンを決める本大会に出場できるのはほんの一握りの選手のみです。クラスによって出場できる人数は異なり、また前年度の本大会で上位に入った選手に翌年度の本大会に出場できるシード権が与えられます。



クラス	本大会出場人数(シード選手数)
BC1	8名(4名)
BC2	16名(8名)
BC3	16名(8名)
BC4	8名(4名)

そのため、予選会を勝ち抜いて本大会に出場できるのは、各クラスでわずか4名または8名のみ。

またこの大会の特徴は、オープンクラスが設けられていること。パラリンピックでは実施されない比較的障がいの軽い選手を、座位と立位の2クラスに分け、他のクラス同様に日本一が決められています。このようにボッチャは障がいの種類や程度に関わらず、競い合える舞台が用意されています。

この大会を勝ち抜いて活躍することが国際大会出場へとつながり、パラリンピックへとつながっていきます。2020年の前に、ぜひ日本最高峰の舞台で行われるボッチャを観戦してみたいでしょうか。

